

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	19 国際関係学科	責任者	岡本信広	
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A	
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
《回答》アジア地域の諸言語や地域研究科目を中心に、国際理解のための社会科学系と人文科学系の科目を加え、それらを4年間バランスよく配置するとともに、1年から4年までのすべての学年で演習を必修として、学習成果の確認を行っている。				
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。			
★<学位授与方針> (記入してください。)	<p>国際関係学科は、卒業に必要な単位を修得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（国際関係）の学位を授与する。</p> <p>1 豊かな教養と専門的な知識およびそれを活用する技能</p> <p>(1) アジア諸地域の歴史・政治・経済・社会・芸術・文化に関する基本的かつ広範な知識を修得している。</p> <p>(2) 異文化への理解を基礎に、特定の専攻分野に関する専門的な知識を修得している。</p> <p>(3) 教育研究上の目標の実現に相応しい英語およびアジア言語の運用能力（コミュニケーション能力）を有している。</p> <p>2 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力</p> <p>(1) 卒業論文等において、問題の発見・設定からその解決方法の提示にいたる一連の研究に取り組み、一定の成果をあげている。</p> <p>(2) 幅広い技術を活用して、さまざまな問題の発見・解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。</p> <p>(3) リテラシーと批判精神を備えた文章表現や口頭表現、ディスカッションができる。</p> <p>3 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感</p> <p>(1) 生涯学習を視野に、専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために主体的かつ計画的に行動することができる。</p> <p>(2) 地域社会の一員としての倫理観と責任感をもって、背景や意見の異なる他者と協調・協働して問題解決にあたることができる。</p> <p>4 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解</p> <p>(1) 異文化理解や専攻分野に関する専門的な知識を基礎に、国際社会に生起する諸事象を多面的に考察し、自らの意見を論理的に構成することができる。</p> <p>(2) 国際社会の一員として、現代世界の諸問題と持続的に向き合い、多文化共生社会の実現に向けて行動する意欲を有している。</p>		変 更	有() 無(✓)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。			
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7			
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。				
《回答》なし				
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。			

<p>★<教育課程の編成・実施方針> (記入してください。)</p> <p>国際関係学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、国際関係論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。</p> <p>(2) アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター(科目群)を設置する。</p> <p>(3) 外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」(1年次必修)と言語文化講座(8言語)を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。</p> <p>(4) 諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習I・IIを必修科目として開設する。</p> <p>(5) 専門演習(3年次)と卒業論文演習(4年次)を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組ませる。</p> <p>(6) 特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。</p> <p>(7) アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目(ドイツ語・フランス語)を選択科目として設置する。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(1) 国際社会に生起する諸事象を多面的に考察する力をつけるために、地域研究科目やクラスター科目等においても、課題解決型学習(PBL・TBL)やフィールドワーク、ワークショップ等を活用した主体的な学び(アクティブラーニング)の場を提供する。</p> <p>(2) 社会人として必要とされる責任感や倫理観、チームワークやリーダーシップ等のジェネリックスキルを習得させるために、DACIX(Daito Asian Communication Index)制度により「学生による企画・実行・参加型の活動」や国内外におけるボランティア活動を奨励する。</p> <p>(3) 多文化共生社会の実現に向けた意欲や行動力を涵養するために、「国際協力・多文化共生」をクラスターに設置し、また「現地研修」や「インターンシップ・イン・アジア」「留学」等により現地体験型学習を推奨する。</p> <p>3 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針(DP)に掲げられた各種能力は、単位取得状況およびGPA、卒業論文審査、各種資格や検定等の取得状況、その他をもって、多角的かつ総合的に評価する。</p> <p>(2) 学位授与方針(DP)に掲げられた各種能力の評価のため、学部のアセスメント(卒業時のアンケートなど)や外部のアセスメント、学生ポートフォリオなどを活用する。</p>		変 更	有() 無(✓)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。		
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Webサイト(大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7		
<p>(DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>DP1. (1)(2)(3) → CP1. (1)(2)(3)(7)、CP2. (3)</p> <p>DP2. (1)(2)(3) → CP1. (4)(5)</p> <p>DP3. (1)(2) → CP1. (6)、CP2. (1)(2)</p> <p>DP4. (1)(2) → CP1. (1)(2)(3)、CP2. (1)(3)</p> </div>			

<p>★項目(2) 4-2DP1からDP4について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか(あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであり、なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ、CP「1. 教育内容」(2)で『日本文学講読』『日本語学講読』や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p> <p>≪回答≫DP1.(1)(2)に記した「アジア諸地域および異文化理解にかかわる専門知識」は、CP1.(1)(2)の「地域研究科目(東アジア地域研究Ⅰ(東アジアの国際関係)など)」、「3つのクラスター科目(多文化共生入門など)」、CP2.(3)の「現地体験型学習(現地研修など)」に連関している。DP1.(3)の言語運用能力は、CP1.(3)の「外国語学習(言語文化講座タイ語Ⅰなど)」に連関している。これらは、CP1.(7)の「全学共通科目(哲学Aなど)」によって補充される。</p> <p>DP2.(1)の「卒業論文」は、CP1.(5)の「専門演習・卒業論文演習(3・4年ゼミ)」に、DP2.(2)(3)の「情報の収集・整理・分析および文章・口頭表現」は、CP1.(4)の「チュートリアル・基幹演習(1・2年ゼミ)」に、それぞれ連関している。</p> <p>DP3.(1)の「主体的・計画的行動」は、CP2.(1)の「主体的な学び(問題解決学入門など)」およびCP1.(6)「キャリア形成(企業と雇用など)」に、DP3.(2)の「地域社会の一員」は、CP2.(2)の「ジェネリックスキル(DACIX制度など)」に、それぞれ連関している。</p> <p>DP4.(1)「専門知識と多面的考察」および(2)の「多文化共生社会の実現」は、CP1.(1)(2)(3)の「アジア諸地域および異文化理解にかかわる専門知識(東アジア地域研究Ⅰ(東アジアの国際関係)、多文化共生入門など)」、「外国語学習(言語文化講座タイ語Ⅰなど)」、CP2.(1)の「主体的な学び(問題解決学入門など)」、CP2.(2)の「ジェネリックスキル(DACIX制度など)」および(3)の「現地体験型学習(現地研修など)」に、連関している。</p>	
<p>◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p>	
<p>≪回答≫なし</p>	
点検・評価項目(3)	4-3教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9、10
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。
<p>★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて、概要を解説してください。</p>	
≪回答≫1年生の演習科目であるチュートリアルにおいて、学部独自のテキストを作成・使用して、ノートの取り方、図書館の使用法から研究発表のやり方、レポートの書き方まで、初歩から授業や学習にかかわる手ほどきを行なうとともに、アクティブラーニングを取り入れた合同チュートリアル、学生生活の注意点などにかかわる指導やキャリア講演会の開催なども実施している。	<p>≪根拠資料≫</p> <p>19-C4-1:基礎教育科目「チュートリアルⅠ・Ⅱ」履修の手引き・シラバス</p>
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点11	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。	
<p>≪回答≫各演習科目や経営学などの科目のみならず、「問題解決学入門」、「ホスピタリティマネジメント」「旅行産業論」、「世界遺産講座」（世界遺産検定受験を推奨）、「SPI 対策講座」においてキャリア教育を行なうとともに、特に「企業と雇用」および「インターンシップ・イン・アジア」において、実際にインターンシップに赴くことを取り入れている。</p>	<p>≪根拠資料≫ 19-C4-2：キャリア教育関連科目シラバス</p>
★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。	
<p>≪回答≫「Global English I」、「Global English II」。アメリカ英語やイギリス英語ではなく、アジア地域を含めた国際語としての英語を習得する科目であるため。</p>	
★項目(3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。	
<p>≪回答≫アジア諸国の7言語および英語からなる「言語文化講座」（1,2年時開講）および「上級」（3年時開講）により、各地域言語を習得している。東アジア、東南アジア、南アジア、中東の政治、経済、歴史、文化などを学習するアジア地域研究科目を各種設け、言語科目とともに学部教育の中心に位置づけている。</p> <p>また、夏季休暇中にアジア諸国など計8か国への「現地研修」を実施し、学生が選択した言語の授業を受けるとともに、その国の暮らしや社会を体験させてきた。コロナ禍により2020年度は中止、2021年度は現地受入校によるオンライン語学研修を8か国語で実施したが、2022年度は4か国で渡航型の現地研修を復活させ、その他はオンラインによる語学研修を行なった。</p>	
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
<p>≪回答≫なし</p>	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9</p>
★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
<p>（注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。）</p>	
<p>≪回答≫諸資格科目については上限設定をしていないが、特段の措置をとっていない。</p>	
★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
<p>≪回答≫現在まで、上限を超える履修登録を認めた前例はない。</p>	<p>≪根拠資料≫ 19-C4-3：なし</p>
★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。）	
<p>①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数：8人 ②長期海外留学終了者 学生数：0人 ③編入生 学生数：0人 ④転学部・転学科生 学生数：0人</p>	
<p>評価の視点2※</p>	<p>シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」</p>
<p>評価の視点3※</p>	<p>シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制</p>
<p>評価の視点4</p>	<p>学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。</p>
★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。	
(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例	

<p>「回答」1年生のチュートリアルから4年生の卒業論文演習まで、すべての学年に演習科目があり、学生が選択したテーマにかかわる専門知識の習得や、研究および成果提示の方法を指導している。また、学部併設されている学生組織「地域研究学会」では、アジア料理祭などのASIA MIX、学部で学ぶ諸言語のスピーチコンテスト、各種の研究班活動（NGO 研究班など）を学生が主体的に運営し、活動している。</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-5: 履修の手引き（演習箇所）、ASIAMIX チラシ、ALSC パンフレット</p>
<p>(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例</p>		
<p>「回答」1, 2年生の演習や「問題解決学入門」、「企業と雇用」などで、課題解決型の授業やアクティブラーニングを実施している。</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-6: 「問題解決学入門」「企業と雇用 A・B」シラバス</p>
<p>(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例</p>		
<p>「回答」演習科目や言語の科目におけるコミュニケーションのみならず、上記「地域研究学会」の料理祭やスピーチコンテストといったイベントの活動において、教員・学生間の協力や学生同士の関係構築がなされている。</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-7: ASIAMIX チラシ、ALSC パンフレット</p>
<p>(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例</p>		
<p>「回答」演習科目によって活用されているが、特にチュートリアルにおいて、課題解決型授業やアクティブラーニングが、クラス内もしくは合同チュートリアル内のグループ活動によってなされている。</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-8: 基礎教育科目「チュートリアル I・II」シラバス</p>
<p>(5)効果的な授業方法について上記(1)～(4)以外の事例</p>		
<p>「回答」講義科目の「アジアの舞踊と身体文化 A・B」では民族舞踊を、「異文化理解特殊講座 3・4（ガムラン合奏 I・II）」では民族音楽の演奏を、学生が実際に行っている。 また、「国際協力・ボランティア入門」および「国際協力・多文化共生特殊講義 2（NGO 活動論）」では、海外におけるボランティア活動などにかかわる情報を提供している。</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-9: 効果的な授業事例（シラバス）</p>
評価の視点 5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
<p>★項目 (4) 4-4④ 授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。</p>		
<p>「回答」個々の科目において、その内容や特徴によって行われており、学科としては措置を講じていない。</p>		
評価の視点 6※	<p>授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入)</p>	
評価の視点 7※	<p>授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス</p>	
<p>★項目 (4) 4-4⑤ オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。</p>		
<p>「回答」なし</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-10: なし</p>
評価の視点 8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
<p>★項目 (4) 4-4⑥ 授業形態（講義、実習、演習）によって、1授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)</p>		
<p>「回答」演習科目(おおむね1クラス10~20名)、英語必修科目(グローバル・イングリッシュ、能力差別の9クラスに編成)、言語文化講座(英語、中国語、韓国語は各2クラス計40名、その他のアジア諸言語は1クラス20名)。</p>		
評価の視点 9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
<p>★項目 (4) 4-4⑦ 学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。</p>		
<p>「回答」なし</p>		<p>「根拠資料」 19-C4-11: なし</p>
<p>◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。</p>		
<p>「回答」なし</p>		
点検・評価項目 (5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	

<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</p>	
<p>評価の視点2※ 【基礎要件●】</p>	<p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12</p>	
<p>◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。</p>		
<p>〈回答〉なし</p>		
<p>点検・評価項目(6)</p>	<p>4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
<p>評価の視点2※ 【評価要件○】</p>	<p>学生の学習成果の測定方法を開発している。 〈学習成果の測定方法例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
<p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p>		
<p>〈回答〉卒業論文の提出および成績評価の状況、DACIX 制度のポイント申請や単位認定、世界遺産検定（「異文化理解特殊講義2・3（世界遺産講座Ⅰ・Ⅱ）」）の受験認定率、現地研修参加率などの結果や数値を、学部の教務委員会で確認・検討し、教授会にて報告・議論している。 また、2022年度より卒業論文に対するルーブリック評価を開始した。学部で作成したルーブリック評価表を用い、専任教員全員が参加して、提出された卒業論文の評価を行なっている。教員には各自の専門に応じて卒業論文が割り振られるため、各教員によって評価論文数は異なるが、教員が担当する演習生の卒業論文を除いて、各教員はおおむね 10 本程度の論文を評価している。この結果については、学部の教務委員会および教授会において報告および議論された。</p>	<p>〈根拠資料〉 19-C4-12：教授会議事録、卒論ルーブリック試行資料、評価指標の活用結果</p>	
<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>		
<p>〈回答〉卒業論文成績評価の集計。卒業論文に対するルーブリック評価結果。世界遺産検定認定率。</p>	<p>〈根拠資料〉 19-C4-13：教授会議事録、卒論ルーブリック評価のピアレビュー結果、評価指標の活用結果</p>	
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>		

<p>《回答》卒業論文に対するルーブリック評価は、2022年度より開始されたものであるため、今年度においてルーブリック評価表の修正などを行なっている。この評価方法を導入したことにより、学科全体としての卒業論文への評価を把握できるようになったため、今後の学生への卒業論文執筆指導の改良に資するものと考えられる。</p>	
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>《回答》卒業論文に対するルーブリック評価は、2022年度より開始されたものであるため、測定結果のより詳細な分析については、今後の測定結果の蓄積を進める必要がある。</p>	
点検・評価項目(7)	4-7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。
<p>★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。</p>	
<p>《回答》本学部で履修する8か国語に留学生による日本語を加えて、9か国語によるスピーチコンテストを毎年開催している。語学の教員による審査があり、優秀者は表彰される。 「授業認識アンケート」の回答に対し、該当教員は必ずコメントを記し、それは公表されている。</p>	<p>《根拠資料》 19-C4-14：教授会議事録、ALSCパンフレット</p>
<p>★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>	
<p>《回答》授業認識アンケートの結果に基づく各授業の改善努力の奨励はもちろんのこと、卒業論文成績評価の向上、ルーブリック評価表などの修正による卒業論文ルーブリック評価の改善、単位認定などによる語学検定受験者数の増加、世界遺産検定認定率の向上、「企業と雇用」「インターンシップ・イン・アジア」「ホスピタリティ・マネジメント」でのインターンシップ参加率向上を図っている。</p>	<p>《根拠資料》 19-C4-15：教授会議事録、卒論ルーブリック試行資料、インターンシップ関連科目シラバス</p>

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	<p>特に、以下の3点につき、取り組みを続けている。</p> <p>1, 現地研修：アジア理解教育の柱のひとつであるアジア言語教育において、実際に外国を体験する学習として現地研修は、学部創設以来の長きにわたって重視され、継続されてきた。コロナ禍により中止を余儀なくされ、その再開が学部の最優先課題のひとつとなった。ようやく、昨年度に8か国中4か国(韓国、インドネシア、ベトナム、オーストラリア)への渡航型現地研修を復活させることができ、今年度は8か国への渡航型現地研修の実施を予定して、派遣先の大学とともに準備をほぼ終えていた。ところが、旅費の高騰などにより研修参加を希望する学生が昨年度より激減し、派遣での現地研修は4か国(中国、韓国、インドネシア、タイ)にとどまってしまった。来年度の状況は不明だが、可能な限り8か国への渡航型現地研修を実現させたい。</p> <p>2, キャリア教育：アジア理解教育の成果を、学生が社会人となって発揮するため、ジェネリックスキルの習得から就職活動の支援まで、キャリア教育の拡充に力を注いできた。1年生の演習科目であるチュートリアル時間内に、キャリア教育の内容を盛り込んで、入学当初から就職にかかわる興味関心を醸成させている。また、「問題解決学入門」「企業と雇用」「ホスピタリティ・マネジメント」「世界遺産講座」「旅行産業論」「SPI対策講座」などのキャリア科目を設けることにより、社会人になる準備を進めるとともに、学生各自の希望に応じたキャリア教育の提供に努めている。特に、「企業の雇用」における企業へのインターンシップ実施の授業内容は、マイナビ主催の第5回「学生が選ぶインターンシップアワード」(2022年度)で、文部科学大臣賞を受賞した。</p> <p>3, 初年度教育・リメディアル教育：以前から、学生の学力低下や学生間の学力格差が指摘されており、これらに対応す</p>
-------	---

	<p>るため、初年次教育やリメディアル教育の拡充を長く図ってきた。1年生の演習科目であるチュートリアルでは、ノート・テイキングや図書館の利用方法から発表の仕方、レポートの書き方、情報リテラシーまで、学習・研究方法の基礎およびその実践にかかわる教育を行なっている。また、英語の1年時必修科目であるグローバル・イングリッシュを、入学時のプレイスメントテストによる能力差別の9クラス編成として、下位3クラスにてリメディアル教育を行なっている。</p>
--	--

Ⅲ 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	<p>コロナ禍により中止や停滞を余儀なくされたさまざまな教育活動は、ほぼコロナ禍以前の状況に復したものの、一部ではいまだに改善の余地が残っている。おおむね良好な状況については、その傾向を維持したまま、改善の余地がある部分については、速やかに対処していきたい。</p>
--------	---

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画 (アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2018-4III-1(4-7)	「卒業論文レビュー評価」の導入と実施	卒業論文レビューや厳格な審査のモデルを作成する。2年の試行期間を経てレビューを改善し、2023年度入学生の卒業論文審査から「卒業論文レビュー」を本格的に導入・実施する。	「卒業論文レビュー」の本格導入までの作業工程(進捗状況)	A(100%)：卒業論文レビュー評価の本格導入 B(80%)：卒業論文レビュー評価の試行(2回目) C(50%)：卒業論文レビュー評価の改善 D(20%)：卒業論文レビュー評価の試行(1回目)	2022 未結果：D 2023：D 2024：C 2025：B 2026：A

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学科として大学のDPに基づいて同じDPを設定しており、それに教育課程のCPを結びつけている。学生の社会的職業的な自立を即す方法として、各演習科目や会計学、経営学にかかわる科目のみならず、「問題解決学入門」や「ホスピタリティ・マネジメント」、「旅行産業論」、「世界遺産講座」などにおいてキャリア教育を行なうとともに、特に「企業と雇用」および「インターンシップ・イン・アジア」の科目において、実際のインターンシップを取り入れていることは、高く評価できる。また、特色のある教育課程として、アジア諸国の7言語および英語からなる「言語文化講座」(1,2年次開講)および「上級」(3年次開講)により、各地域言語を習得し、また、東アジア、東南アジアなどの政治、経済、歴史、文化などを学習する、アジア地域研究科目を各種設けていることは、高く評価できる。</p> <p>教育課程の自己点検を定期的に行っているが、学修成果の測定はまだ発達段階であり、現状は卒業アンケートなどの分析により、教育課程の改善に繋げている。今後の学修成果の測定と改善が望まれる。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>DPには学習成果が明確に示され、CPとの関連性も図られている。教育体系や実際の授業形態も初年次教育・リメディアル教育に位置づけられた「チュートリアル」に始まり、専攻分野の専門的知識を習得させるためのクラスター(科目群)の設定やそれらを実質化させるための工夫として、学部創設以来最大の特徴である現地研修科目を配し、コロナ禍の中止期間を経て昨年度より再開している。「チュートリアル」「問題解決学入門」などの主体的な学びを生み出すための課題解決型、実践型、インタラクティブ型等の授業も数多く取り入れており、学習の活性化を促す工夫も図られている。キャリア教育の充実も図られ、「問題解決学入門」「ホスピタリティ・マネジメント」「世界遺産講座」「旅行産業論」「SPI対策講座」などの実践的な科目が設けられているほか、インターンシップ実施を取り入れた「企業と雇用」のように社会的に高い関心と評価を得ている科目も整備している。このように学部創設以来の特徴ある教育を維持しながら、カリキュラム改編や学長プロジェクト等を通じて教育課題に継続的に取り組まれていることを高く評価したい。</p>

気になる点があるとすれば、国際関係学科と国際文化学科の DP と CP が全く同一内容であること、この点だけは学位付与との関係上問題があるため、見直しが必要である。

また、2022 年度より卒業論文ルーブリックの導入に向けた試行が始まっており、課題である学習成果の測定と改善にも取り組んでいる。学生の学習成果の測定が適切に行われていることを根拠資料により確認した。本格導入を目指し、継続的に今後も取り組んでいただきたい。

なお、この所見についてだが、国際関係学科と国際文化学科のシートの記載内容が、諸資格科目の履修学生数を除き同じであるため、所見の内容も全く同じにならざるを得ない。2 学科の DP と CP が同じである以上教育内容も当然同じなのだろうが、本シートの記述で相違点を挙げることはできないのであろうか。2 学科に分かれている以上その違いを明記されることを希望する。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 (評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準 4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を

考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。